

(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は弱含んでいる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

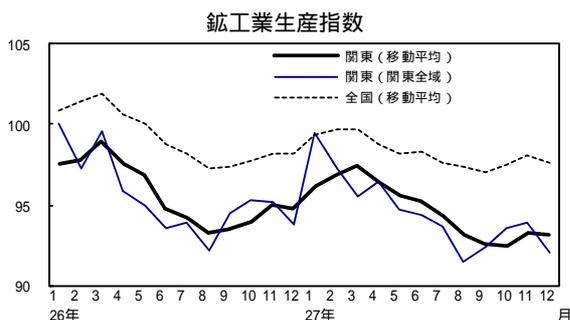
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 27 年 11 月)	今回 (平成 28 年 2 月)	
住宅建設	増加	減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は弱含んでいる。(関東全域)

輸送機械は自動車用エンジン、懸架制動装置部品等を中心に減少。電気機械はセパレート型エアコン、電力変換装置等を中心に増加。情報通信機械はネットワーク接続器等を中心に増加。生産用機械は国外向けで数値制御ロボットの受注があったこと等から増加。



- (備考) 1. 22年=100、季節調整値、最新月は速報値。
2. 全国及び関東の大線は後方3か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

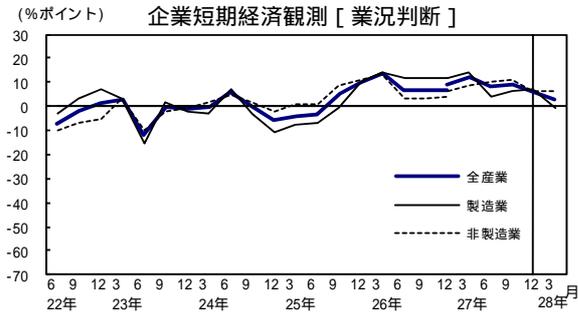
	付加価値 ウェイト	生産				
		7~9 月期	10~12 月期	10月	11月	12月
輸送機械	18.6	3.5	1.0	2.1	0.2	3.0
化学	15.1	3.3	-	0.9	0.5	-
電気機械	9.3	3.3	2.3	0.7	1.9	2.8
情報通信機械	6.2	15.3	6.0	6.9	19.6	2.1
生産用機械	6.1	12.9	2.2	15.6	2.2	1.4
鉱工業	100.0	2.8	0.6	1.2	0.4	2.0

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

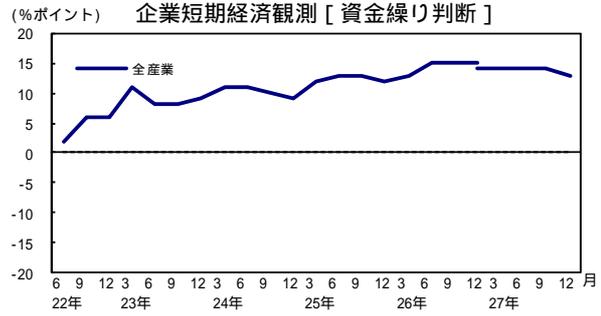
2. 10~12月期、12月は速報値。化学は速報値では公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

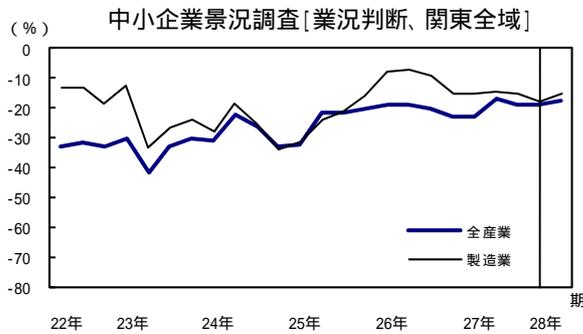
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。28年3月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。
日本銀行横浜支店管内。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。
日本銀行横浜支店管内。

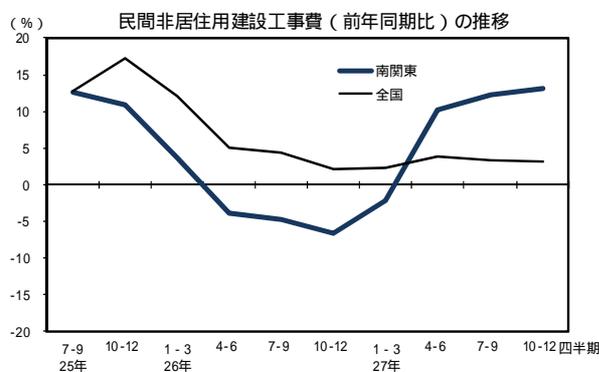


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。28年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「冬らしい天気となり、売るべき冬物商材の動きが活発になってきている(食料品製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	26年度実績	27年度計画
全産業	0.1	16.2 (0.7)
製造業	5.2	18.5 (6.0)
非製造業	7.5	12.9 (8.4)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。
日本銀行横浜支店管内。

(4) 南関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前月比0.9%減、11月は同1.7%減、12月は同0.2%増となった。

百貨店・スーパー販売額

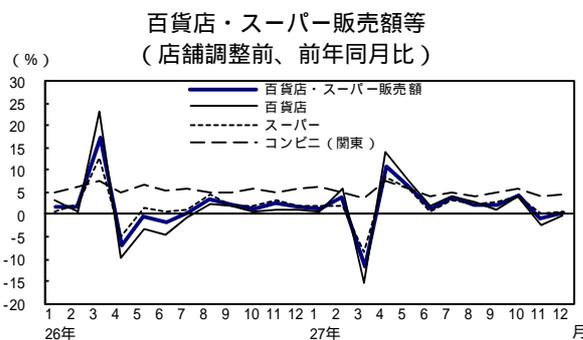
百貨店は、10月は、インバウンド効果等から化粧品等の動きが良かった「その他の商品」や、「身の回り品」等が好調であったことから、前年を上回った。11月は、暖冬の影響により「衣料品」等の動きが鈍かったことから、前年を下回った。12月は、引き続き「衣料品」の動きは鈍かったものの、「その他の商品」や「家庭用品」に動きがみられたこと等から、おおむね前年並みとなった。

スーパーは、「食料品」や「家庭用品」を中心に動きがみられたこと等から、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

南関東地域の家計動向関連DIは、43.7となり前月より5.4ポイント低下した。

「先日のスキーバス事故の影響で新規申込、問い合わせが激減している (旅行代理店)」など「悪くなっている」とする回答が増加した。

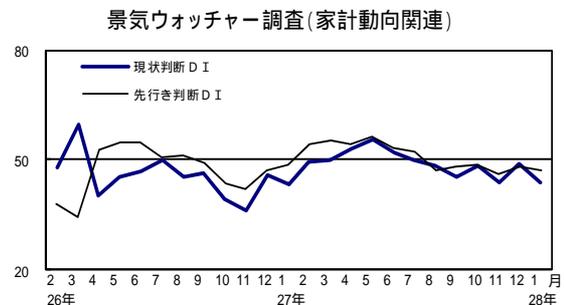
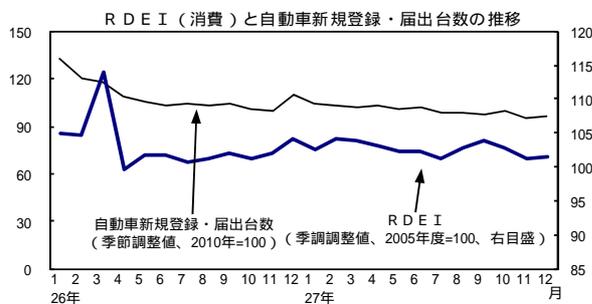


	27年10-12月	27年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.8	0.9	1.7	0.2
百貨店・スーパー(*2)	1.1	4.2	0.9	0.4
百貨店(*2)	0.3	4.2	2.4	0.2
スーパー(*2)	1.6	4.3	0.2	0.6
コンビニ(*2)	4.7	5.8	3.9	4.4
乗用車(*3)	6.1	0.5	4.6	12.3
(季節調整値)(*3)	0.7	2.9	4.6	1.4

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)、コンビニは関東全域

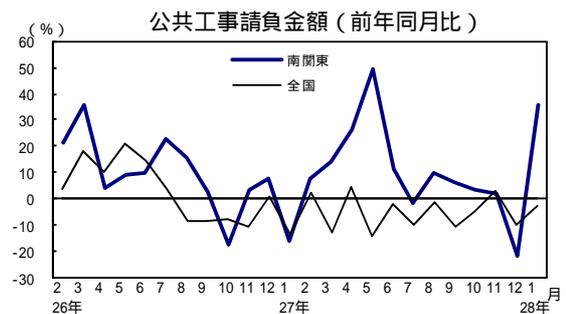
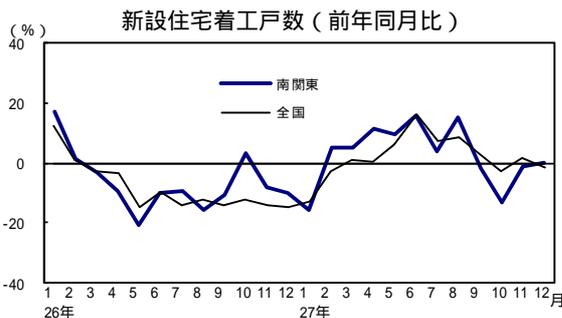
3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は減少している。

貸家が前年を上回ったものの、分譲が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は27年度累計で見ると前年度を上回っている。



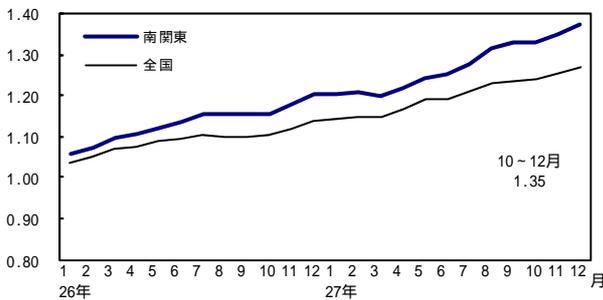
3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

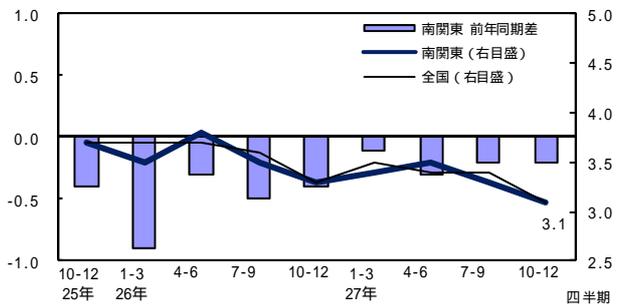
有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。

(倍) 有効求人倍率 (季節調整済)



(ポイント) 完全失業率 (原数値) (%)



景気ウォッチャー調査 (1月調査結果)[雇用関連(現状)]

「初めて求人を申込む事業主も多く、人手不足が続いている(職業安定所)」などの回答がみられた。

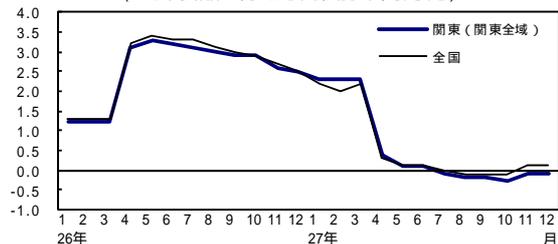
(2) 企業倒産は、件数は増加、負債総額は大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の下落幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	27年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	28年1月
倒産件数	697	748	674	773	225
(前年比)	12.0	14.6	19.6	14.3	5.5
負債総額	2,075	1,448	2,721	4,220	271
(前年比)	33.1	30.4	110.6	118.7	73.1

(%) 消費者物価指数 (生鮮食品を除く総合、前年同月比)



景気ウォッチャー調査 (1月調査結果)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・気温が下がり、クリアランスセールがスタートしても主力のファッション関連、特に防寒衣料が苦戦している。依然として中間層マーケットの厳しい状況が続いている(百貨店)

<先行き>

- ・相変わらず人手不足で人件費が高騰し、原材料の高騰による原価率の上昇など、厳しい状況は続く(一般レストラン)

景気ウォッチャー調査 (合計: 家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

